

日本医療催眠学会 第7回 学術大会

# 令和の時代を無意識と生きる



日時 2019年9月29日(日)

AM 10:00 ~ PM 6:00

会場 國學院大學 渋谷キャンパス  
130周年記念五号館 2階 5202教室  
(東京都渋谷区東4-10-28)

主催 日本医療催眠学会

大会長 鈴木 ひろえ

ホリスティックケア Bell Tree

Japan Medical Hypnosis Association.

 日本医療催眠学会

## 第7回日本医療催眠学会 ご挨拶と複合催眠について

萩原 優（日本医療催眠学会理事長、イーハトーヴクリニック）

「日本医療催眠学会」もおかげ様で、第7回の学術集会を迎えることができました。

これも、一重に学会会員の皆様、ボランティア、事務局、役員の方々の支えによるものであり、心よりお礼を申し上げます。

「催眠療法は心理学の母胎であり母である」、この言葉は催眠療法（以下催眠）の心理学の立場を的確に表しております。

催眠は大きく三つ、1) 伝統的な催眠、2) 現代催眠、3) 心身催眠、に分類されます。1) はセラピストがクライアントに対して、積極的に働きかけます。2) はエリクソンが開発した手法で、セラピストとクライアントは対等の立場であり、自然な形で進行します。3) 心と体はつながっている。細胞・臓器には感情や記憶があるとする仮定に基づいて、催眠下で体に働きかける手法です。

私たちの医療催眠では、心の問題と取り組むには、1)、2) を用い、身体的な問題に対しては3) を用います。

催眠に対する考え方としては、エリクソンの「人は誰でもが自分の課題を克服できるレジリエンス（回復力）を持っている」に基づき、誘導法には主に伝統的な誘導法を用い、必要に応じて退行療法も行います。また、身体的課題に対しては「ソマティック・ヒーリング（体細胞療法）」を用います。この様な催眠を、それぞれの良い点を取り入れたハイブリッドな催眠を行っています。

## 第7回日本医療催眠学会の開催にあたって

鈴木 ひろえ（ホリスティックケア Bell Tree）

日本医療催眠学会学術大会開催にあたり、今年も國學院大學の会場をお借りし沢山の皆さまにご尽力いただきましたことを御礼申し上げます。

本学会は平成25年の発足から医療現場に限らず、心と身体を統合してとらえ、催眠はもとより潜在意識に働きかける療法やヒーリングの手法など幅広い視点から『心の医療』や『癒しの医療』として医療・福祉・心理・教育等の分野における催眠及び潜在意識の活用を科学的に研究し正しい普及を促進する目的で設立された学会です。

第7回目となる今回の大会は ～令和の新時代をいかに無意識と生きるか～ 思考する私からありのままの私へ。決して特別な意識でなく、日常誰もがあたり前と思って使っている領域の見方を広げてみる。ご登壇者さまの貴重なお話がご出席皆さまの無意識へ語りかけて下さることと思います。

当日は全倍音のシンギングリン音響療法とソマティックヒーリング(体細胞療法)をあわせた事例報告、奇跡の楽器シンギングリンの開発者/和真音氏の演奏と共に誘導瞑想の時間をいただきます。令なる心で和やかに、本大会もお楽しみいただければ幸いです。

## 最強のココロ整理術

おのころ心平（一般社団法人自然治癒力学校理事長）

### 【概要】

クライアントの悩みごとの背景にある「シャドウ」、「コンプレックス」、そして、その悩みを構成している「ゲシュタルト」にすばやくアクセスし、悩みの核心を、無理なくクライアントとカウンセラーで共有できる方法として、「ibマッピング」というメソッドをご紹介します。

### 【本文】

25年のカウンセリング経験を通じて、クライアントご本人が、その悩みを悩みとして認識しながら会話している時に発する言葉と、そうでない時に発する言葉とでは、意外にも、後者の方に問題の核心が多く見いだされていることに気づきました。

ibマッピングは一枚の紙の上に「相手の言葉だけ」を放射状に書き出していくというルールをもとにヒアリングしていく方法ですが、例えば、カウンセラーが悩みの焦点をしぼって質問すればするほど、クライアントはその回答への「思い込み」によって生じるスコトーマを、溜めの言葉や不意の口ぐせにして表現してしまうのです。

一見、思考を整理しているようにヒアリングしながら、周辺の言葉の中に、ココロの悩みの本質を見いだしていくコミュニケーションツール。ケーススタディとともにお話しして参ります。

## 霊性に根差した生き方を考える

長堀 優（一般財団法人 育生会横浜病院 院長）

### 【概要】

量子力学が広く受け入れられるに従い、生命の概念は様変わりし、死後の世界を科学的に探求しようとする一流の物理学者まで登場しています。もし、死後の命が証明されれば、私たちの価値観は大きく変わります。人生に起こる様々な苦難も、永遠の「魂」を磨き、輝かせるための試練であり、苦難を越えてこそ初めて気づける摂理に気付けるからです。「魂」を見据えた生き方は、今生において何が大切かを考えさせてくれるはずです。

### 【本文】

魂を見据え、死を受け入れ、覚悟を決めた生き方は、病気に対する考え方や向き合い方も変容させます。限りある地球での人生をより豊かにするために、私たちが、まず行うべきことは、価値観を目に見えるものから目に見えないものにシフトさせることです。言い換えれば、俗世的な金、物、名誉などではなく、目には見えない心の豊かさを求めて行動することです。心の豊かさとは、東洋哲学が示すように、人間の仏性である慈悲心に根差した行動をとること、つまり、人のお役に立てるような利他の行動に、喜び、ワクワク感を感じることに他なりません。目に見えない心の豊かさは、肉体が減びても何らかの形で連綿と残り、自らの魂を高めるのです。物質文明が極まり、先の見通せない世情の今こそ、霊性ととともに、魂を見つめなおして、日本人古来の生き方を思い出し、世界に広げていくことこそが、現代に生きる私たち日本人の使命なのではないかと私は考えます。

## 音の響き、心の響き

松尾 紗都呼（アイリッシュハーブ&うた）

### 【概要】

音を聴く、音を感じる、音を楽しむ、音を発信する。私たちの周りには様々な音の響きがあります。私たちの大切な身体と心に響く音はとても重要な役割を放っている響きです。一番心地がいい音、それは、私たちの体と心が覚えて（思い出して）いるときに、心地良さを感じることができるのです。それは、瞬時に無意識なレベルで起きます。

### 【本文】

私は長年、音楽を奏でる上で、実感として感じてきました。特に、緩和ケア病棟ではリクエストを受けながら奏でます。病棟の患者様とご家族さまの思い出の曲は、私も共感できる魂の部分での喜びの共有です。昨年フランスと日本の文化交流の会にて、諸外国の方々と平和を願い、音楽を通じて響きあいました。宗教や国の違いも関係なく和になり、歌を歌いました。音楽は私たちに私たちの無意識な感覚と意識的な感覚を超えて無限な響きを感じさせてくれると思いました。障害を抱えた方々とも曲を作り、発表会をしています。障害も乗り越えた素晴らしい曲が数々出来ています。音楽は楽しいのが一番です。感性で感覚で一番先に感じたインスピレーションが大切だと思います。私はハーブと出会い、ハーブを弾きながらだいすきな歌を歌っています。今世ではハーブに出会ったのは大人になってからですが、不思議な事に、直ぐに弾くことができたのです。ある夜、月の光の下で奏でていたときに前世を思い出したのです。私がハーブを直ぐに弾けたわけがそこでわかりました。今世でも奏でることができる喜び幸せなことです。そして、聴いていただき音の響きを共感できるのは心からの喜びです。皆さんで歌うことで健康になりましょうと、活動しています。健やかに歌うボイストレーナーとしてもお教室を開講しています。本日も皆さんで歌って音楽を楽しみましょう。

# 年齢退行と前世療法における被験者とセラピストの脳波について

玄場 珠美（ヒプノインフィニティ湘南） 志賀 一雅（脳力開発研究所）

## 【概要】

ヒプノセラピーにおけるセラピストとクライアントとの脳の活動状態を調べる目的で、2人の脳波を同時に計測しながら年齢退行療法を行った。セラピストは、クライアントと事前面談を行い、段階的リラクゼーション法を用いて催眠誘導し、深化させ、クライアントの問題となっている事象の幼少期の場面へと年齢退行を行った。前世療法ではクライアントの右脳と左脳との脳波を測定し、脳内の活動を分析した。脳波測定は志賀が担当した。

## 【本文】

年齢退行では、セラピストは、段階的リラクゼーション法を用いてクライアントを催眠誘導し、深化させ、確信体験後、安全地帯のお花畑をイメージさせ、問題となっている事象の幼少期の場面へと退行誘導した。クライアントは幼少期へと退行し、その場面での登場人物への人格交代を行い、本人の口から語られた内容により新たな気づきが得られた。前世療法ではクライアントの右脳と左脳に脳波測定器を装着し、同手法で催眠誘導を行い、階段法で前世退行を試みた。本実験に用いた脳波測定装置は脳力開発研究所のアルファテック 7Gで、ノートPCと2chの小型インターフェイス及びセンサーバンドで構成されている。年齢退行では2人計測で電極配置は左脳前額部Fp1、リファレンスはA1、アースはFp2の単極誘導法を採用した。計測中は動画と音声を収録して分析の参考にした。前世療法では、電極をクライアントの右脳Fp1と左脳Fp2、リファレンスをA1とした単極誘導法を採用した。

# 精神科クリニックにおけるFAP療法、催眠療法の実践

加藤 詩子（心理カウンセリング波詩）

## 【概要】

催眠療法において、精神疾患のある人への適応は主治医の照会が必要とされており、特に抗不安薬や抗精神薬を服用している人に対しては医師の指示の元、行うのが適切である。筆者は、精神科クリニックに勤務していた期間、クリニックに通院中で、筆者が臨床心理士、公認心理師として担当して心理療法を行なっている患者さんに対して、主治医の許可の元、FAP療法、催眠療法を実施。その中で改善、変化のあった事例を複数報告したい。

## 【本文】

幻聴のある人に催眠療法は有効なのか…。幻聴とはそもそも誰の声なのか…。潜在意識が全てを知っているなら、どんな状態の人であっても潜在意識とつながることができれば、状態に変化を起こすことはできるのでは…と思った。FAP療法では瞬時にクライアントに催眠状態に入ってもらい潜在意識にアクセスする技法がある。これを幻聴が聞こえている統合失調症の方に試したところ、安全に潜在意識とつながることができた。幻聴は頭の後ろの方から声としてはっきり聞こえるが、潜在意識の声は胸の中心部から上がってくるように感じるとのことである。クライアントの潜在意識とアクセスするには、セラピストが自身の潜在意識を信頼し、主観を排除してセラピストもまた催眠状態に入る必要があると感じた。疾患、服用、症状との関連も考察しながら、催眠療法が有効だった事例、逆に潜在意識には到達できなかった事例も挙げて考察したい。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

# クライアントのイメージ上の人物を擬人化した配置図を催眠療法に併用した事例報告

藤原 万梨子（日本親子コミュニケーション研究所）

## 【概要】

クライアントの問題に関連する人物をイメージ上で擬人化し、その擬人化の距離や向きを記す方法を催眠療法と併用することの効果を紹介。1、事前面談でクライアントが認識していない問題の原因を明確にする。2、催眠中にイメージ力が低いクライアントがイメージしやすくなる。3、セッション前後の変化の不明瞭なところを擬人化の配置図を示すことでクライアントが変化を認識。擬人化の配置図の信頼性についての調査を報告する。

## 【本文】

催眠療法を行う上での問題点のひとつは、クライアントのイメージ力の良し悪しが影響を与えることである。イメージ力の個人差はセッションの展開とクライアントの意識変化に差が出る要因である為、イメージ力の個人差をより少なく、且つクライアントとセラピストがイメージを共有できる指標があれば、心理療法としての催眠療法の効果も測れるのではないかと考えた。そこで擬人化の配置図を使うメンタルスペース心理学のソーシャルパノラマ手法を催眠療法に取り入れたところ、催眠療法前に擬人化の配置図をビジョン化してもらうことで問題の背景とそれに関わる人物の関係性がわかりやすくなった。その配置図にはクライアントの世界観が表れており、クライアント自身が気づいていない認識もセラピストと共有することができた。配置図の解説の納得度を調査し平均80%の納得を得た。擬人化の配置図は思いを上手く言語化できない子どもには役立つものだと期待できる。

# グリーフ（悲嘆）に対する対処法及び支援技法

橋元 慶男（産業保健総合支援センター）

## 【概要】

死生学に基づき、グリーフのプロセスの理論とグリーフ・ケアサポートにおける気づきの大切さやかかわり方を実証的なケースを通して考察する。

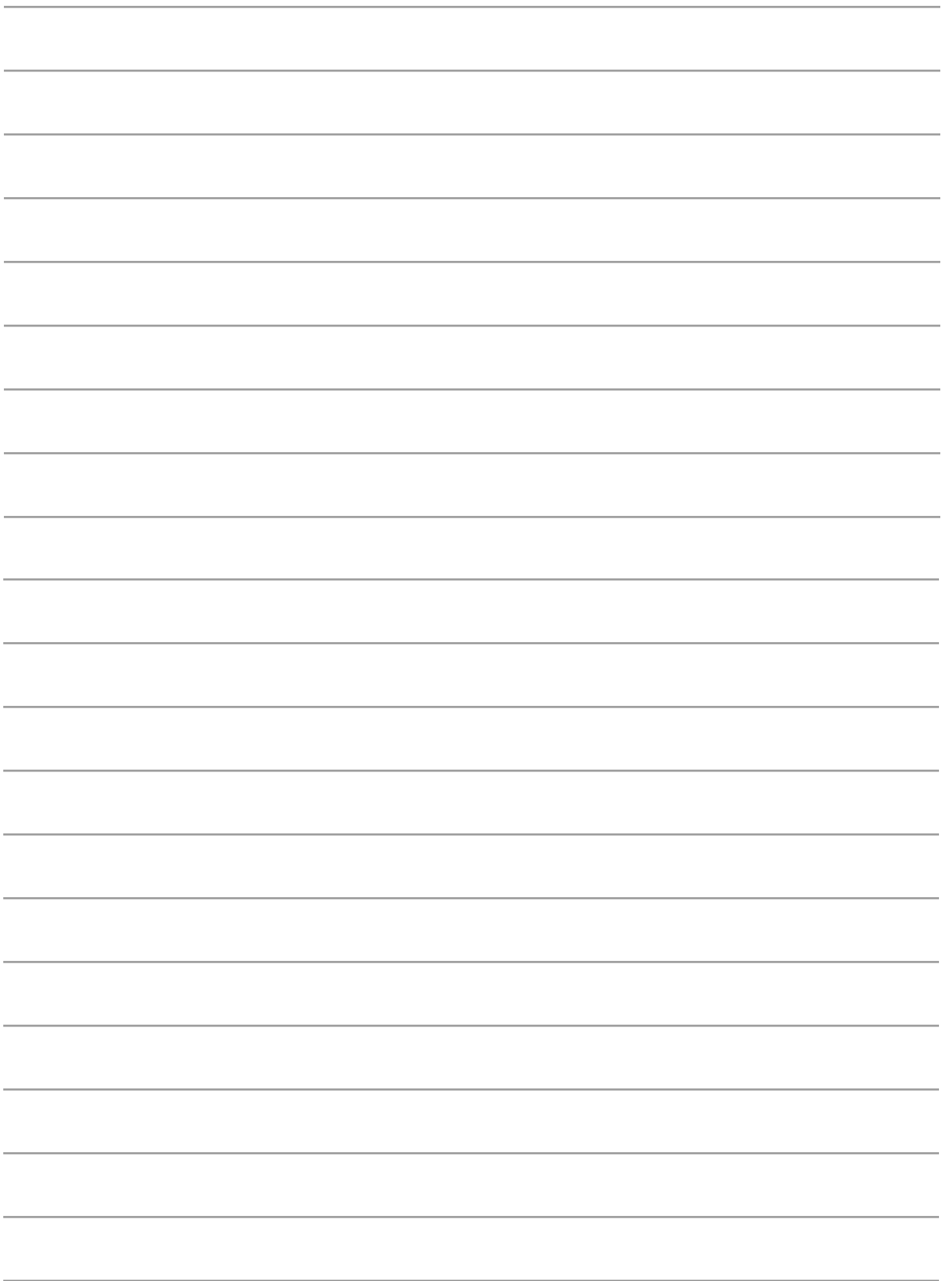
grief careには、一般のカウンセリングと違う特殊な援助的コミュニケーションがあり、そのクライアント自身や遺族への対応を考察する。

## 【本文】

悲嘆（Grief）とは、大きな喪失体験により、身体症状を含む感情面・思考面・行動面に表れる複雑な反応であるが、悲嘆のプロセスの理論から、課題モデルを通じてgrief workやgrief care・回復を目標にして、グリーフ・カウンセラーとして、境界線のチェックを通して、援助的コミュニケーションや禁句を学ぶものとする。

身体的・精神的、社会的な全体的苦痛(total pain),への対応や自己の存在と意味の消失から生じる苦スピリチュアルペインへの対応の理解が重要である。





## プログラム

9:30	開場 ～ 受付	
10:00～10:30	萩原優	日本医療催眠学会理事長 挨拶
10:30～11:10	鈴木ひろえ	開会の辞 シンギングリン&ソマティック症例ビデオ&誘導瞑想 ～演奏 シンギングリン開発者 和 真音～
11:15～12:15	おのころ心平	最強のココロ整理術
..... 休憩 .....		
12:15～13:30	...	昼食 (理事会) ...
..... 休憩 .....		
13:30～13:45	学会総会	
13:50～14:50	長堀優	霊性に根差した生き方を考える
..... 休憩 .....		
15:00～15:20	松尾紗都呼	ハーブ演奏～音の響き、心の響き～
15:20～15:40	玄場珠美 志賀一雅	年齢退行と前世療法における被験者とセラピストの脳波について
15:40～15:55	加藤詩子	精神科クリニックにおけるFAP療法、催眠療法の実践
15:55～16:10	藤原万梨子	クライアントのイメージ上の人物を擬人化した配置図を催眠療法に併用した事例報告
16:10～16:25	橋元慶男	グリーフ(悲嘆)に対する対処法及び支援技法
..... 休憩 .....		
16:40～17:50	天外伺朗	催眠療法の根源を問う
17:50	橋元慶男	閉会の辞
18:30～20:30	懇親会 (事前申込)	國學院大學 渋谷キャンパス 若木タワー 18階 有栖川宮記念ホール

連絡先 : 日本医療催眠学会 事務局

所在地 : 〒225-0002神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-18-9ニューライフビル202 イーハートヴクリニック内

TEL : 070-4388-7102 FAX: 045-482-7620 学会HP : <http://japan-mha.com>